

発行所 株式会社週刊住宅タイムズ
 〒107-0062 東京都港区南青山1丁目1-1 新青山ビル西館11階
 電話 03-6721-1338 FAX 03-6721-1328
 発行人 週刊住宅タイムズ 代表者 鈴木美由紀
 2020年6月17日 第三種郵便物許可
 問い合わせ info@sjt.co.jp 情報提供 press@sjt.co.jp

年ぎめ購読料 18,164円 本誌・送料込み(税込) 19,980円)

不動産DXの窓口
自社ツールを活用した自動化
構築費十分の2を指す

レックアイ(東京都豊島区)

代表取締役 鈴木徳之氏に聞く

最新情報を自動で

■売買仲介に伴う背景と課題

①情報量の多さと変動

物件情報サイトには多数の物件情報が掲載される。全てを人が手動でチェックするのは非常に時間がかかる。物件価格の変動、掲載終了など、物件情報は日々更新され、常に最新の情報をチェックする必要があります。

②整理と分析

多数の物件情報をチェックした後、それを整理し、分析する作業は専門的な知識と経験が求められる。

③新規物件

物件情報が新たに追加されると、新規物件として自社システムに登録する。新しく市場に出た物件情報を迅速に取り扱うことが可能になる。

④価格変更なし

物件情報が新たに追加されると、そのまま維持する。物件の価格変更などがないことを確認する。情報の整合性を保つことが可能になる。

件、価格変更物件、掲載停止物件のデータを一括収集することで、大量の物件情報を効率的に取得することができる。常に最新の物件情報を自社システムに反映し、顧客への提供が容易になる。

③掲載停止

登録済みの物件が削除された場合は、掲載停止物として扱い、システム上でその物件の掲載を停止する。市場から消えた物件を適切に管理することが可能となる。

④条件変更なし

価格や募集条件に変更がない物件は、変更なしの物件としてそのまま維持する。物件の価格変更などがないことを確認する。情報の整合性を保つことが可能になる。

①新規物件

物件情報が新たに追加されると、新規物件として自社システムに登録する。新しく市場に出た物件情報を迅速に取り扱うことが可能になる。

②価格変更物件

この流れを周期的に繰り返すことで、自社システムの物件情報は常に最新の状態が保たれ、顧客に対し、適切かつタイムリーな情報が提供できる。物件選定の時間短縮にもつながる。

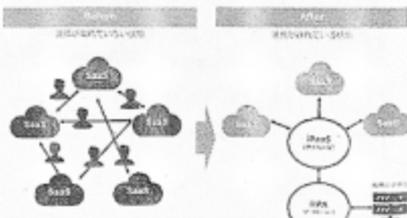
③リスク

①サイトの利用規約違反
 物件情報サイトの利用規約で、自動的な情報抽出が禁止されている場合、RPAを利用することは違法となる可能性がある。ないリスクがある。

②データの正確性

RPAツールは、指定したルールに基づいて情報を抽出するが、サイトのレイアウトが変更された場合、正確に情報を抽出できない場合がある。③技術的なトラブル
 RPAのシステム障害やバグなどにより、正確な情報収集や更新が行えないリスクがある。

SaaS との連携は iPaaS が行う



自社システムとの連携 = RPA